

★オリンピック・パラリンピック特集★

オリンピック、パラリンピックが想定外のコロナで1年延期になり、そしてやっと迎えた今夏はその日を待っていたかのようにコロナ感染者が爆発的に増え、開催地である東京には緊急事態宣言が発令されました。東京都では、聖火リレーの公道走行は中止、オリパラ両競技は無観客大会となりました。自宅でTV観戦の日々を過ごした方も多いのではないのでしょうか？江東区内に会場が点在するため、大会期間中は大会ボランティアの青いポロシャツを着用した人をよく見かけました。

「連盟に所属する人で大会ボランティアをした人はいるのかな？」と、広報部 Twitter で呼びかけたところ、なんと！いらっしゃいました。最も選手に近い場所で東京 2020 の大会を支えた貴重な体験談を是非聞かせていただきたいと思いお願いしたところ、快くご協力くださり感謝！感謝です。Mさん本当にありがとうございました。

また、連盟の活動ではありませんが、広報部3名もパラリンピックのマラソンコースサポーターのボランティアをしてきましたので、感想コメントを掲載させていただくことにしました。 (ハレ美)



★幻となった聖火リレーサポーター★



3月25日に福島で始まったオリンピックの聖火リレー。その後46道府県を巡って7月9日に東京都に到着、21日には我が街江東区へ来る予定でした。バレーボール連盟にも聖火リレーサポーターの要請があり、15名（スポ推2名含む）が沿道での整備を担当することになっていました。本来なら各名所を巡り皆様に応援、祝福される予定でしたが、残念ながら公道走行が中止になり、着用する予定だったサポーターのTシャツが幻の物となってしまいました。当日は品川区立しながわ中央公園で大田区・品川区・江東区の合同点火セレモニーを無事に終え、次の会場へと引き継がれていきました。 (<https://youtu.be/eSTroi6mXVk>)

また、8月21日のパラリンピックの聖火リレーも公道走行が中止に…江戸川区の都立葛西臨海公園での点火セレモニーのみとなり、予定されていた連盟役員7名（スポ推2名含む）の出番も無くなってしまいました。

(<https://youtu.be/hlpMGzGg75U>)

こちらが残念ながら着られることのなかった幻のTシャツです。→→→

(ハレ田)



★ボランティア体験記 ～オリンピック・大会ボランティア～★

◆東京2020大会ボランティアに参加した理由

自身がスポーツをしていること、仕事柄スケジュールの融通がきくこと、試合会場に近い江東区に住んでいることなど、ボランティアとして参加するにあたり様々な条件が揃っていたので、世界的なスポーツの祭典で貴重な体験ができることを期待して、ボランティアに応募しました。



◆活動の内容、裏話など

私はビーチバレーボールが行われた潮風公園で、PRS (PressOperation) のPhotoTeam というグループに所属して活動していました。

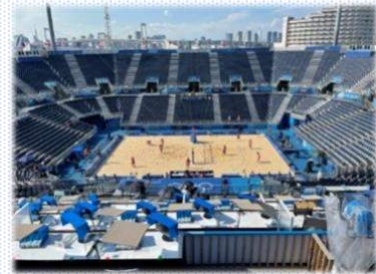
主な仕事は、試合会場に取材に来る各国のフォトグラファーの誘導などです。

今回コロナ禍での開催により、各会場で取材制限があり、事前に撮影の予約をするという方法に変わったので、当日ブッキングをした方が、目的の場所で円滑な撮影ができるようにサポートしました。

会場は屋外屋根無し、連日炎天下、雨の日も試合を行ったので（ビーチバレーは雨天決行）なかなか過酷な現場でした。常に熱中症に注意し、台風の日やゲリラ豪雨時もレインコートでの仕事で足元もビショ濡れてましたが、何より選手の試合が安全に滞りなく行われることが最優先でしたので、殆どのスタッフが、その状況さえも楽しみながら活動していました。

大会関係者は、アクレディテーションカードという身分証明書を身につけているのですが、そのカードには入れるエリアや、どのような関係者かという情報が色・数字・2～4文字のアルファベットの略語で記載され、多岐にわたります。また、大会施設などもアルファベットの略語で表記されています。取材の方々に適切なスペースに誘導するために、毎日少しずつ覚えましたがなかなか大変でした。

そして、大体覚えた頃に大会が終わりました…。笑



◆大会を終えて

ビーチバレーのボランティアは、10代～70代までの幅広い年齢層、全国の様々な地域から参加している方がたくさんいらっしゃいました。

また、東京2020の為に世界各国からスポーツイベントのスペシャリストが集まり、大会を運営していました。このような大会のボランティアに参加していなければ知り合えなかった方たちです。

大会直前の無観客を始めとした、これまでの大会にない様々な変更点に、最初は現場もバタバタとしていましたが、終わってみれば「大会は無事成功！」大会関係者は皆「やり切った！」という思いで、充実感にあふれていました。

コロナ禍での開催で正直参加を迷った時期もありましたが、思い出の一つとなる素晴らしい体験ができて、今は参加して良かった！と心から思っています。

(Mさん)



←フィールドキャスト用ピンバッジ
活動日数重ねることにいただきました

試合球とコート→
砂は記念に一瓶いただきました



★ボランティア体験記 ～パラリンピック・コースサポーター～★

4月頃たまたま目に止まった<パラリンピックマラソン・コースサポーター募集>の文字に『こんな機会はこの先もうないだろうな!』と思い、駄目もとの気持ちで区内聖火リレーのサポーターをすることになっていた広報部の仲間を誘い3名でグループ応募しました。

抽選の結果7月に当選通知をもらい、開催2週間前にサポーターの説明会があり当日着用するTシャツや帽子を受け取りました。コロナ禍ということで、この日から4週間の検温と体調管理シートの記入が義務付けられました(当日を挟んで前後2週間)。

応募した時は予想もしていなかった、まさかの緊急事態宣言下でのパラリンピックのマラソンコースサポーターでした。マラソンボランティアの使命はこの競技大会を成功させること。私たちグループは14区(神保町辺り)に配属され、当日は夜中3:15に神保町に集合し、その日一緒に活動する他のサポーターたちと活動場所へ移動しました。9月初旬にしては肌寒く、雨が降ったり止んだり競技者にもボランティアにも厳しい気象条件での活動でした。活動場所に到着したらまだ薄暗い中で早速活動開始です。鉄柵、立ち入り禁止テープやコーンの設置などのコース作りをみんなで協力してやりました。競技中は、競技エリアの走行道路沿いに等間隔で立ち、歩道から人が入って来ないように、観客の傘が走行道路側に出ていないかなど周囲に注意を払いながら、選手が安全に競技ができるように沿道側を向いて立っていました(オリパラのマラソン競技をTVで見た方はわかるかな?あんな感じです)。

コロナ禍+雨で観客も少なく、また他大会でのボランティア経験もあって気持ちに余裕があり、沿道側を向いて立ち周囲に気を配りながらも視界の端で選手達を見て応援していました。実際に手が届きそうなほどの至近距離をパラアスリートたちが車いすを漕いだり走ったりしていて、ランナーの息づかいやランナーと伴走者の会話の声だったり、車イスをリズム良く漕ぐ音や車輪から飛び散る水飛沫の音が鮮明に聞こえました。14区の往路復路の競技終了後撤収作業をし、無事にすべて終了した時はホッとしました。帰宅したのはお昼ごろ。長丁場だったためお腹も減って足がパンパンでしたが、昼食を食べながらTVでパラバスケット決勝戦を観て、パラマラソンのハイライトを観て、楽しみにしていた閉会式は途中で力尽きて目が閉じてしまいました。そして、その夜は充実感と疲労感で朝まで爆睡でした(笑)。

コロナ禍で開催されたオリンピック、パラリンピックに賛否両論ありましたが、緊急事態宣言下でステイホーム中の私の唯一の楽しみはオリパラ競技をTVで見ることでしたし、たくさん観て数々の感動をもらいました。また今まで見る機会がなかったパラ競技をたくさん見て知ることもできました。

世界で最も大きなスポーツの祭典に、バレー仲間(広報部仲間)たちと一緒に参加し、ほんの少しでも関わったことは貴重な経験であり一生の思い出になりました。

(S)



友人に誘われて、パラリンピックのマラソン競技のコースサポーターというボランティアをしてきました。今までこのような経験がなく、未知の分野だったので少し緊張していました。前日は早くに布団に入るもなかなか眠れず、部別の前日のようでした（笑）。42.195Kmのコースが124区間に分けられていて、私が担当した区間は約200mあり、その中にコースサポーターは12名配置されていました。他にも、国際技術委員、管理長・区長、観衆誘導の方々、給水などの大会ボランティアの方々、交通規制線の外で車やバイクを誘導するの方々、そして大勢の警察官など、たくさんの人たちが携わっていました。いったいどれだけの人か…と考え、自分もその中の一人なんだなぁと改めてすごいことなのだと感じました。全選手が通り過ぎ、マラソン競技が無事に終わったとわかったときは、ホッと嬉しかったです。オリンピックやパラリンピックに携われる機会は、これが最初で最後かもしれないと思います。本当に貴重な経験ができました。



(O)

小雨降る中、夜明け前の午前3時15分から活動開始。鉄柵設置、立ち入り禁止用テープを張るなど色々と作業はありましたが、すべて初めての経験でしたので心弾む気持ちで準備しました。



競技中も雨が降ったり止んだり休憩もなく立ちづめでしたので、ハードな部分がありました。

また、私の役目は『観戦自粛』の看板を首から下げコースには背を向け観衆のほうを見ることだったので選手を応援するという意味では少し残念でしたが、それ以上に競技エリアに立ち、選手たちの安全を守る協力をさせていただいたのは、とても貴重で楽しい時間でした。

パラリンピックマラソンのコースサポーターを経験できたことは私にとって一生の思い出となり、これからも様々な活動に参加していきたいと思います。

(A)



オリンピックカラー



←有明アリーナ
(バレーボール会場)

夜は五輪色で
ライトアップ→



パラリンピックカラー

★新ご協賛企業様のご紹介 ～(株)フラスコ100cc～★

昨年度末に(株)フラスコ100cc(「MILEGRA(ミレグラ)」)様よりご協賛のお話をいただき、常任理事会で話し合い検討した結果、今年度よりご協賛していただく運びとなりました。現在コロナの影響で大会ができない状況ですが、担当者の澤田 勝成さんより自己紹介とメッセージをいただきましたのでご紹介します。コロナが収束して大会が開催されるようになりましたら皆さんと直接お会いする機会もあると思いますので、お顔を覚えてくださいね!!!

「MILEGRA(ミレグラ)」のホームページ及び連絡先は、連盟ホームページの下側にご協賛企業様のリンクがありますので、そちらをご覧ください。 (バレ美)



笑顔が素敵な澤田さん

皆さん、初めまして!

この度、江東区バレーボール連盟様にご協賛をさせていただき、バレーボールウェアブランド「MILEGRA(ミレグラ)」の澤田と申します。

私も学生時代はバレーボールに打ち込んでおりまして、今回ご協賛をさせていただくことで、バレーボールに取り組まれている皆様を少しでも応援できればと思っております!

MILEGRAは日本バレーボール協会公認ブランドでございますので、公式大会でもご着用いただけます。

お得なキャンペーンも随時行っておりますので、是非この機会にチームでウェアを揃えられてはいかがでしょうか。少しでも気になった方はお気軽にご連絡下さいませ!



10月1日緊急事態宣言解除に伴い、練習再開するチームも多いと思います。久々の練習再開にあたって、怪我などしないように徐々に体を慣らし、ゆっくり始めながらバレーボールを楽しみましょう!!!

コロナ感染防止対策は今まで通り万全で!

